

おかげさん

87号

真宗大谷派
高德寺通信
2019年夏号



日ごろのこころ 慣れるとこうこと

「うわあーすごくいいーなんて美味しいんだ
こは」…私だたし小小学2年生くらい
であつたろうつね。初めて「日青カップヌード
ル」を食べた時の感想だった。なんと
カップにお湯を入れて数分待つているだ
けで夢のような美味しいラーメンが食
べれるのだ。ちやぶ台の前で正座して
時計を見ながらワクワクして出来上
がりを待つていた。昭和40年代の頃の
自分の姿が思い出される。皆さんも
時代や対象は違えども同じような
経験をされたことがあることでしょう。
が、しかし、月日が経ち、大人になって
今、カップヌードルを食べるとしたらど
うでしょうか？あの時のように正座
をして待つたりしないし、ワクワクよ

りも、早く出来上がりないかなあなんて思
うだけで、あの時のように小エビから口に入
れようか、玉子からか…なんて考えたりする
こともないでしょう。たぶん…それはどうい
うことかというとも、何回も食べて慣れてしま
っているからですよ。「慣れる」という言葉を辞
書（今はネットでググる…ですか笑）で調べると、
①たびたび又は長く経験して、何とも感じなくな
る ②経験を重ねること、物事が上手に出
来るようになる…とある。ちなみに「馴れる」
も調べてみると↓人や動物に対して親しみを
感じるようになる。警戒心を持たなくなる
…とあった。（例・「動物を飼ひ馴らす」「上司にも
馴れてきた」）「慣れる」は自分が、「馴れる」は
相手に対して…というところで、字は使い分ける
としても、根っこは同じことである。「慣れる」
と「馴れる」は煩惱でいうと「日ごろのこころ」と
いって、どんなに感動したとしても、それは次第
に色褪せて薄れていく…。例之は、自分の誕生日
にお祝いしてもらって、ものすごく嬉しくて感

動したとする。しかし感動のデモンションは、当日と、次の日、一週間後、一年後では明らかに違うでしょう。我々人間は煩惱そのものですから、生きている限り、どんなに感動したりしても、そのデモンションを永遠に維持出来る人はまずいません。これを讀んでくださっている方で、今朝、目が覚めた時「おおー、この私は有り難いことに目が覚めて、生きておるではないか!!」と、喜びのあまり感動して涙が頬を伝っていった…なんて人はなかなかにいませんね。朝目が覚めることも、長年繰り返していること、何とも感じなく、なごしまつのです。「もうこんな時間か」とか「ちょっとだるいなア」とか言いはがり寝床から起き上がる…そんな毎日なのではないでしょうか？

「カッパヌードル」の話を戻ると、初めて

食べた時は、「このスープは何で作られているんだろう?」「何と何が入ってるんだろう?」「とか分らないことばかりだった。今、大人になってみると、だいたいのことは分かっている(つもり)。大きな工場が頭に浮かび、食塩やら鳥がラス、プ等が混ぜ合ひされる様子が思い浮かぶ。もう分かつてるよと「分かった」というところに腰を下ろしてしまっている。だから何とも感じなくなっているのではないだろうか? 以前、あるご住職に「分らないということが私を聞かせていくんです。だから教えるは大事なんです。新しい発見と驚きに出遇っていくことが、生きていくということですよ。」と教えていただいた。我々は自分というものに目覚めておらず、「うたた寝状態」なのではないだろうか? (何も感じずにあたりまえのように生きてはいないだろうか?) 昨日のちろんききてもおかしくない。今の自分に驚いて、目が覚めたならば、立ち上がったて歩み出すこととが出来る。仏教「真実の教えは我々を目覚めさせる」はたらきである。仏法を聞く、お念仏を稱える(このことは、如来(真如)も来る)のはたらきに出遇う縁をいただくということ。お盆を縁として「慣れる」「日ごろのころ」ということについて、「一緒に考えてみませんか…。」

第16回 『博多・熊本・鹿児島 宮崎を めぐる旅』

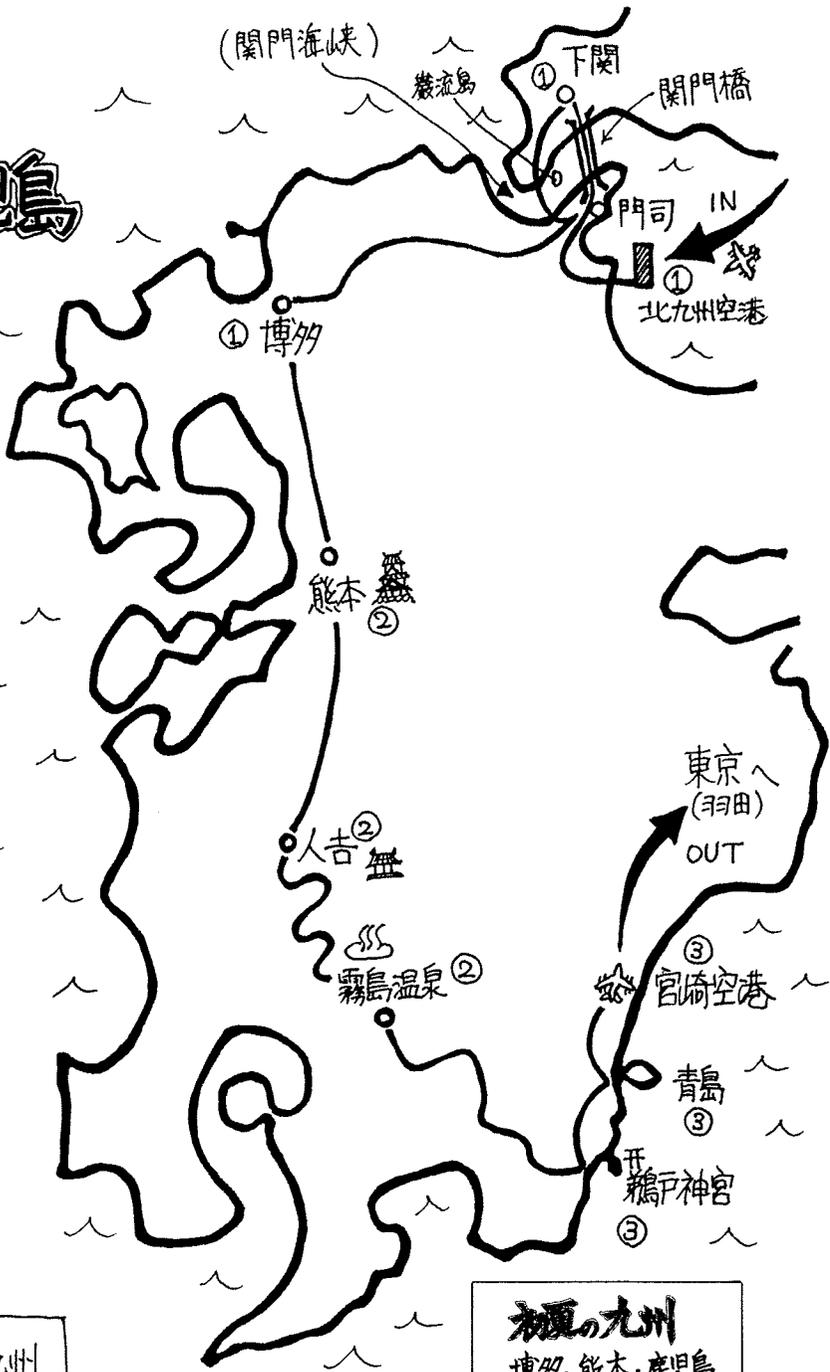


旅のルート

① = 1日目
② = 2日目
③ = 3日目



今回の旅は、梅雨入り直前の九州を、北から南へと大胆に巡り熊本城の“今”を見学したり、かくい念仏のゆかりのお寺を参拝し、九州の文化に触れて参りました。そのご報告です!



瀬の九州
博多・熊本・鹿児島
宮崎をめぐる

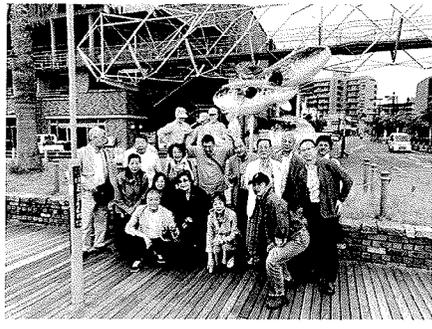
旅

第16回
高德寺旅行会 2019
(1) 5.31-6.2

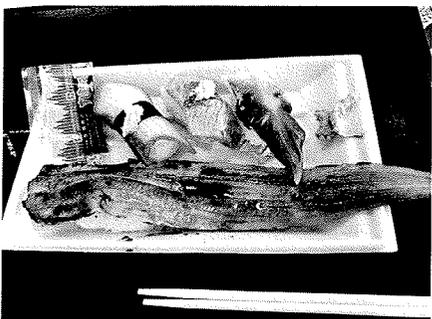
5月31日
1日目
羽田空港 ↓
北九州空港 ↓
下関 ↓ 門司

時折薄日が差す曇り空の中、東京組（九州から参加

あり）15名は、羽田空港オーターミナルに集合し、9時25分に北九州空港へ向けて離陸した。順調に飛行と着陸し、小雨の北九州空港へ10時50分に到着。ロビーに出ると、任職の長男・了吾（理左）九州大各短期大学在籍で福岡県に住んでいます」と今回三日間お世話になるバスの三島徹也ドライバーが出迎えてくれた。気温は20と、東京と同じくら



◆下関・唐戸市場の前でパチリ。



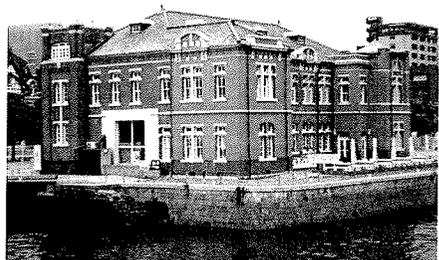
◆任職のちび。穴子の一本握りくじら、とり貝、カツオ...どれも旨かった♪



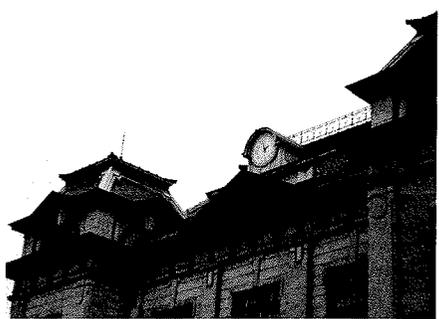
◆下関港から門司港までは連絡船に乗って...

もり、ズナブルで、ひれ酒のワンカップと共に胃袋へ！ちなみに去年が「フグ食解禁130年」だったそう。満腹になった一行は、関門連絡船に乗って、対岸の門司港を目指す。と言っても約5分の移動である。近くにはかの有名な「厳流島」が浮かび、武蔵と小次郎の決闘が行われたのは162年（慶長17年）のことである。

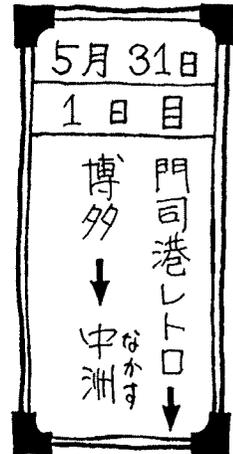
いであつた。一行はバスに乗り込み、下関の台所「唐戸市場」へ向かう。途中、山口県下関市と福岡県北九州市門司区の間、関門海峡を跨ぐ「関門橋」を渡る。全長1068m、海面からの高さ約70m、240億円をかけて1973年（昭和48年）に完成した。橋を渡る際の左右の景色は素晴らしく、生きた初めての山口県入りに心が躍る。10分程で唐戸市場に到着。週末には「活きき馬関街」という屋台がいっつも出て、寿司等を提供してくれる。一行はそれぞれお自当てのお昼ごはんを頬張り、下関の海の幸を堪能した。名物のフグの刺し身を



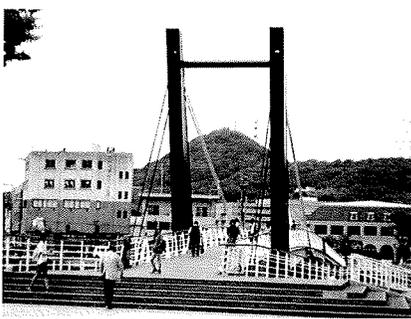
◆門司港のレトロな建物の一つ、北九州市旧門司税関。1912年（明治45年）建つ。



◆門司港駅... 1891年（明治24年）開業。駅舎は重要文化財に指定されている。



門司区は北九州市を構成する7区の行政区の一つで、「門司港レトロ」は、JR門司港駅周辺地域に残る外国貿易で栄えた時代の建造物を中心に、ホテル、商業施設などを大正レトロ調に整備した観光スポットである。船を降りるとそこは、綺麗に整備された、まさにレトロな佇まいが広がっていた。人力車に乗る人、焼きカレーを食べに行く人、お茶する人、散歩する人。それぞれの時間を楽しむ。そういえば、下関から雨は止んでいて、ここ門司では良い天気になってくれた。バスが待つ駐車場まで



◆「ブルーウイングもじ」は、日本最大級の歩行者専用の「はね橋」。全長108m.

ゆっくりと歩いて移動。途中、ブルーウイングもじを渡る。海、船、レトロな建物を眺めながら静かな港街を味わった二行は、バスに乗り込み博多へ向かう。九州自動車道経由で約一時間半。「ルートイン博多駅南」へ到着。



◆「魚一番」という居酒屋さん。広いお店だが、満席で活気がある！



◆とても良い雰囲気の「ミツバチ」ネオンが川面に映って、本当に綺麗だ！

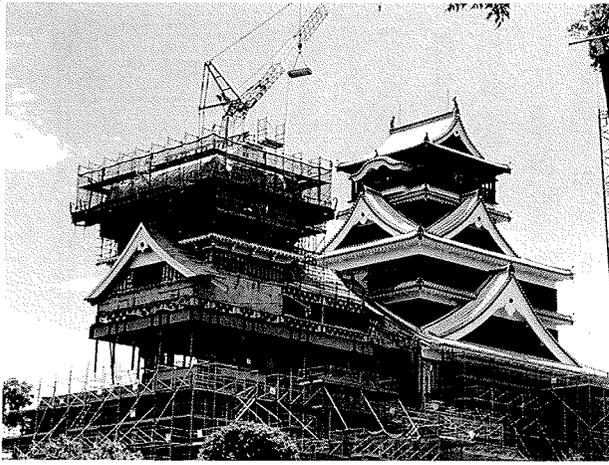
ビジネスホテルながら、ごんまりとした大浴湯があり、初日の疲れを洗い流すことが出来た。夕食と懇親会は、博多駅近くのお店にて、海の幸ともつ鍋に舌鼓を打つ。鮮度の良い刺身と本場のもつ鍋をワイワイと味わえて嬉しい。2次会は、有志で中洲の「ミツバチ」というお店へ。ここは博多に明るい友人に教えてもらった那珂川沿いのダイニングバーだ。なんとその友人の先輩がこの店の常連さんで、人気のリバーサイドの席を取っておいてくれていて、全員で夜景を楽しむことが出来た。席の横に川が流れていて、まるで船に乗っているようだ。風が気持ちいい。旅行会で博多を訪れたのは2回目であるが、食物は美味しい。人は優しい(気がする)。気候も暑くなく寒くないし、本当に有ること難しのおかけさんだなあと思おう。かくして、旅行会一日目はあつという間に過ぎて行った。中洲の夜景の余音をお土産に部屋で床につく。

6月 1日

2日 目

博多 ↓
熊本 (熊本城)

目覚めると窓の外は良い天気であった。入浴・朝食を済ませバスに乗り込む。9時に出発。九州自動車道を通過して熊本を目指す。都心を抜けると左手に田園風景が



広がり、遠くに西日本電鉄の2両連結が走っていて長閑だ。高速を降りて市街地に入ると渋滞していてなかなか進まない。路面電車がうらやましい。10時40分、熊本城の二ノ丸駐車場に到着。参加の門徒さんの同級生の方が熊本にいらして、その方のお知り合いがボランティアをされていて、(昨日お願いしこもうって)今回、中井さんという方からご案内いただけることとなり、説明を伺いながらお城の周りを見学する。曲大手門から「戌亥櫓」の方向へ進むと、右手に「天守閣」が見えてきた。写真のように、大型のクレーンや足場で囲われていて、修復の真最中である。江戸時代初期に加藤清正が築き上げ、西南戦争を耐えた熊本城。その難攻不落を誇った名城が未曾有の大地震に見舞われたのは2016年

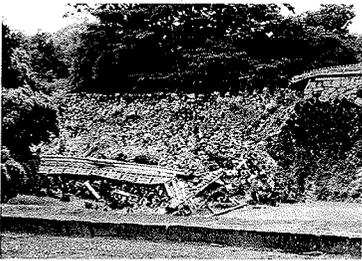
◆現在の天守閣修復の様子。昔のやり方と現代のやり方のハイブリッド。こういう感じを受ける。



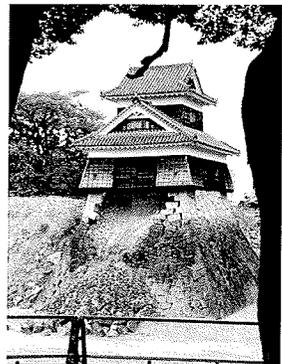
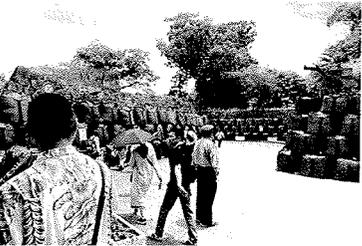
◆加藤神社の横の撮影スポット(へ)で。



◆ダメージが大きすぎる...



◆石垣の手前と土のうでガード。



4月14日のことであった。あれから3年復興作業は進んでいるものの、被害が広範囲にわたっていて、あちらこちらでその傷跡が痛々しい程に残っている。この城の土台・石垣の石の夕さに驚く。今年の10月頃には天守閣が間近で見学できるようになるらしく、2021年の春頃には天守閣の内部を含めた修復が完了する予定だったが、城域内全体の修復完了は2027年頃までかかる。一人でも多くの人が現地を訪れ、復興を見守ることが、お城への何よりの助けとなるのではないだろうか...

表紙で描いた「戌亥櫓」

6月1日
2日目
熊本 ↓ 人吉
乗行寺参拜
霧島温泉

熊本城見学後、「城見櫓」という所で昼食をとり、

馬刺を味ゆう、名前の通り、部屋からお城が見える。大変残念ではあるが、ここでお一人都合でお別れとなる。

外はピーカンでとても暑い。14時半、人吉I.C.を降り

たところで、正念寺の住職の竹下秀寛さんと合流

して、乗行寺へ先導していただく。竹下住職は人

吉在住で、以前、旅行会でお世話になりました。今回は、短大

の仏教科で息子の了吾に「声明作法(お経やお勤め)を

教えていただいております。頭が上がりません。(笑)合流後、

20分程で、「真宗佛光寺派・乗行寺」に到着した。



◆ 弾圧されていた当時の「正信偈」かな+漢字が交じったもので、一見、何が書かれているのか分からない。が、そのまま読んでみると「音(あん)で正信偈(しょうしんげ)になる。役人に見られてもつかまらぬように誰かが考へ出したのであろう。



◆ 乗行寺本堂

◆ まな板本尊



◆ 乗行寺の住職 富士谷 澄照さん

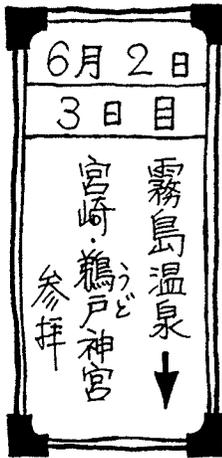


◆ 傘本尊：桐の木で作られたかざの中に親鸞聖人の御影をかきつけて持ち歩いた。



一行は本堂に上がり、住職のお話を聞かせていただいた。口くち念仏「人吉では、157年に藩主・相良晴広により一向宗(真宗)禁制が出され、弾圧が始まった。(明治4年の廃藩置県により、信仰の自由が許される間の約300年間)禁制の理由は3つ。一つは、他国に藩の情報が漏れるのを恐れた。二つには、一向一揆を起すような勢力は危険だし、金が他国(京都の本願寺)へ流出するのを恐れた。三つには、以前より一般庶民にも自由と(男女)平等をとなえており、封建制度が崩壊するようになったことがあっては困る...。こうして、本尊(阿弥陀如来)や掛け軸、勤行本(お経本など)は焼き払われ、見つかった人は処刑された。真宗の信者(門徒)たちは、知恵を出し合い、信仰をはぐくみ、念仏の教えを相続していった。早真、まな板本尊は、男性は台所に入りなかつたので、まな板(本尊)を女性が持つて、とまりの家に行っても怪しまれなかつたようだった。お念仏が浄土で仏になる道だという教えが、隠れながらでも守られていくという人々の結束を生んだのだと感じた。信教の

の自由の権利が保障されている現代に生きる我々に、「いのち、かけられますか?」と問われているように、しばし言葉が出なかつた。長時間熱く語っていただいた住職と坊主さんにお礼を申し上げて、バスに乗り込み霧島温泉へ向う。名前の通り雨霧がかかる山深い道をくねくねと進む。18時、小雨の中、「霧島国際ホテル」に到着。チェックインをすませ、風呂へ直行する。乳白色でほんのりみず色がかったお湯で、とっても気持ちが良い。2日目の夕食も懇親会…もちろん大いに盛り上がり、霧島の夜は更けていった…。



残念ながら目が覚めても太陽は顔を出しておらず、小雨の中、霧島の湯を堪能する。8時半、竹下住職と了吾(2人)は都合つなずここで別れ…

に見送られながら出発。新緑のワインディングロードを行く。約一時間走り、宮崎自動車道「高野」から乗り、10時過ぎに「宮崎」で降りる。左手には海が見える。22号線を進むとフェニックスの並木と鬼の洗濯板のような岩が目につく。11時、霧島宮崎へ到着。雨の中階段を上って行く。途中トンネルを抜けると今度は下りの階段をかなりおりる。

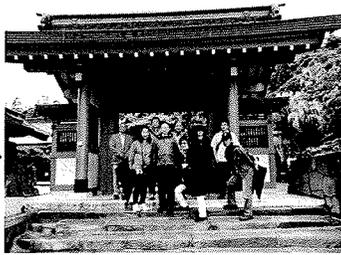


鶴戸神社は古くからの海洋信仰の聖地で、平安時代には修験道の道場として栄え、「西の高野」とも呼ばれたという。断崖の中腹に本殿があるため、参拝するには崖沿いの石段を降りる必要がある。参拝としては珍しい、「下り宮」になっている。この日南海岸はかつては、新婚旅行の聖地」として賑わったそうだが、ピークの1974年(昭和49年)には、宮崎市内に宿泊した新婚旅行客は約37万組もあったという。本殿の前の欄干から崖下の、お岩のくぼみに石を投げ入れる「濯玉」というのが有名らしいのでやってみた。男は左手で、というので「エイッ、ん」と3投目がみごとに入った♪こういう時に限って周りに誰もいない…。

◆霧島国際ホテルの庭から外を眺めると、あちこちから湯煙(ゆけり)が立ちのぼっている。
◆「濯玉」…粘土の素焼きに「濯」の文字が刻まれたもの。5個が100円。意外と距離がある…。



◆右下に見える所から左奥に入ると本殿がある。



◆途中、巫女さんとすれ違ひ…シャッターを押してもらった。



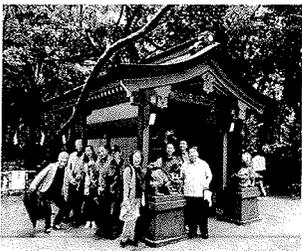
◆高さ8.5mの洞窟内に建つ本殿。意匠には、「お乳岩」なる鍾乳洞がある。



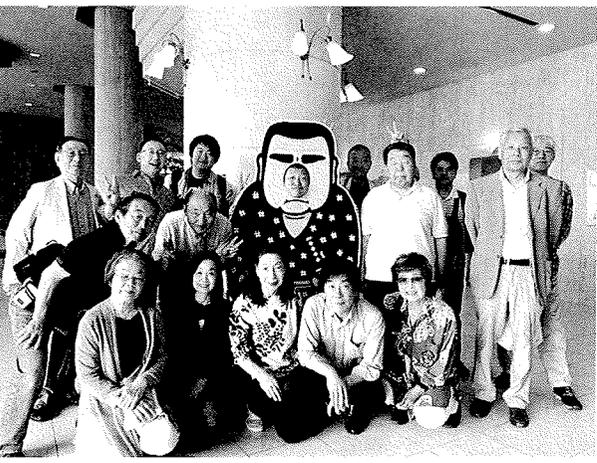
◆「濯玉」を投げた時に、300中100が見事に崖下のくぼみに入った!!

6月2日	青島神社参拝
3日目	↓ 宮崎空港
	↓ 羽田空港

けこうな数の石段を上り下りしびがうバスまで戻る。良い運動であった。待機組と合流して青島近くの昼食会場へと移動する。宮崎はやぱり「チキン南蛮」が名物。2人分?と思うくらい量の驚きが、歩いたので完食してしまふ。歩いて「青島」へ向かう。ぶらぶらとゆっくり歩いて約10分。数軒の土産店の通りを進むと視界が開けて海岸に出る。ずーっと続く参道を歩くと、両脇に、鬼の洗濯岩がそのダイナミックな姿を見せてくれる。どうしてこんな形になった



のたろうか? ↓ 青島をとりまく波状岩は約700万年前に海中で出来た水成岩(固い砂岩と軟らかい泥岩が繰り返して積み重なった地層が隆起し、長い間に波に洗われ、固い砂岩層だけが板のように積み重なって見えるようになったもので、地学用語で「波食棚」と呼ばれているようだ。ちなみに青島神社は青島の中にある縁結びの社で、江戸の頃までは、一般の人の入島は許されていなかったんだと噂だ。帰りの道



鬼の洗濯岩の上を歩いてみた。長い長い年月をかけた、地球のお仕事なみたなア。ここに来れて良かった。雨もほとんど止んだようだ。それぞれ散策をしたり、お土産を買ったりと自由な時間を味わって、バスに戻る。ここから宮崎空港までは30分くらい。今までの行程からするとあつという間である。15時に到着。バスを降りて三島ドライブにお礼と別れを告げて空港内へ。時間に余裕があるので各自思い思いに過ごす。17時に離陸し、羽田には18時半に無事に着いた。ロビーで解散して、家路に着いた。今回の旅もとても楽しく、驚きと発見があった。本当に、

◆霧島国際ホテルのロビーにて♪

有ることを難しのおかげさんごであった。来年も企画したいと思っておりますので乞うご期待です...

スペシャルサンクス&おまけ



◆熊本城でガイドをしてくださった、中井さん



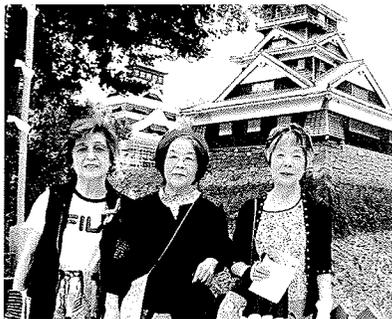
◆人吉の衆行寺ご住職
富士谷 澄照さん



◆人吉の正念寺ご住職
竹下 秀覚さん&了吾



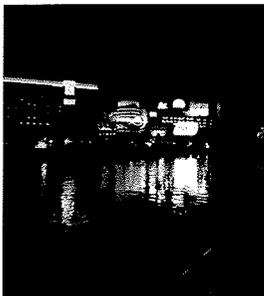
◆人吉の「竹筒仏」
たけつつぼとけ



◆ガイドをお願いくださった古谷さん(右)
& 柳澤さん(中)、塚田さん(左)



◆3日間 お疲れ様でした!
三島 徹也ドライバー



◆中洲の夜景
(白黒ですみません...)



◆ウェストのごぼう天うどん



◆熊本・城見樓の「馬刺御膳」

あき ひ かん え
秋彼岸会

9月

20日(金)～26日(木)

この一週間がお彼岸期間です。

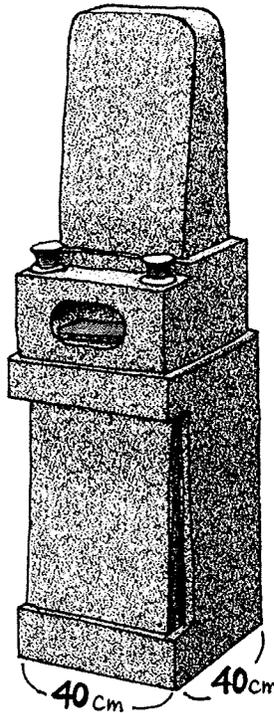
9/23 (月・秋分の日)

11時半より
本堂にて「彼岸会の法要」
が勤まります。お参りください。

※ 9/22(日)・23(秋分の日)は

新井白石記念ホールが「お休み処」になります。ご利用ください。

NEWS



小さいですが
ちゃんとしたお墓が
建てられる区画を
ご用意いたしました。

ご案内・ご説明いたします。

お気軽にお問い合わせください。

○他にもいろいろな大きさの区画や墓じま(撥灰ま)必置の
ない「帰面廟」(納骨墓)もご用意します。

GOENS

ゴーエンス

～チャリティーライブパーティー～

8.25(日)

のご案内～

17時開演

(16時開場)

※20時終了予定

お一人様 1000円

(中学生以下は無料です)

高德寺新井白石記念ホール

の地下1階で行います。

お誘い合わせの上、遊びに
来てください♪



※当日の参加費及び「義援金BOX」内の募金は(13)真宗本派・災害ボランティア部門他へ寄附させていただきます

ほう おん こう
高德寺 報恩講

2019年

10月19日(土)

じんしゅう
巖修 いたします。

かい ほうりゅう
◆ 法話講師 海法龍氏
(横須賀・長願寺住職)

一年に一度の大法要です。どなたでもご参詣
になれますので、ご予約ください。

88号(秘号)でもご案内いたします。お誘い合
せの上、お参りいただきたいと思っております。

寺ヨガ&寺子屋の時間

今後の予定

7/20

9/14

10/5

11/2

12/14

→12月は希望者で「望年会」を開く予定です。

※8月はお休みです。

寺ヨガ 14時~15時
(参加費・500円)

寺子屋の時間 15時~勤行・15時45分~
(参加費・500円 お話し・座談・輪読等)

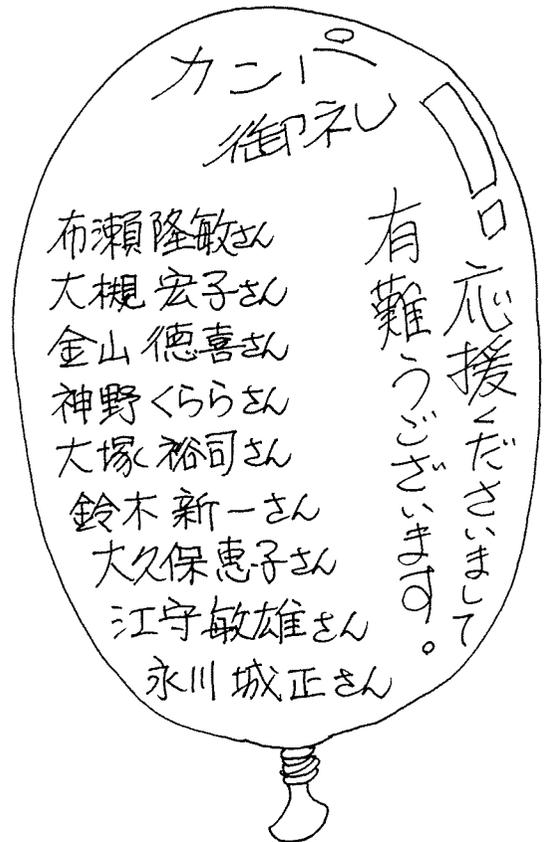
◆ どの回もと「なだでも、寺ヨガのみでも寺子屋の時間だけでも、両方でも」ご参加出来る。皆様の「ご参加を」お待ちしております！

Omigaki Onrei

(2019.3.10 本堂にて)

海東 雅子さん	寛谷 恵美子さん
清水 和美さん	古谷 紀代美さん
菅原 悟さん	水越 拓路さん
菅原 千穂子さん	水越 和子さん
塚田 和子さん	柳澤 佐智子さん

今回もおみかき奉仕いただきまして有ること難しの「おかげさん」です♪



あとがき



門司港レトロを訪れた時に、「バナナの叩き売り」

は門司港周辺が発祥と知った。バナナは明治時代

後期以降、台湾の商人が神戸港に持ちこん

だのが始まりとされているそうだが、その後、地

理的に台湾と近い門司港はバナナの流通

拠点として大量に荷揚げされることになっ

た。通常バナナは、完全に熟していない

(青)うちに運び、問屋の

地下室で熟成させて各地に

出荷されるが、まれに輸送中の

船内で熟成が進みすぎたりする。

当時は保存の技術がなかったため、そう

いうバナナは廃棄されていた。廃棄

前にバナナを売り切ってしまう。

やり方が叩き売りの始まりとさ

れている。たいていは二人一組で、一人

が口上を述べて、もう一人は料金を受

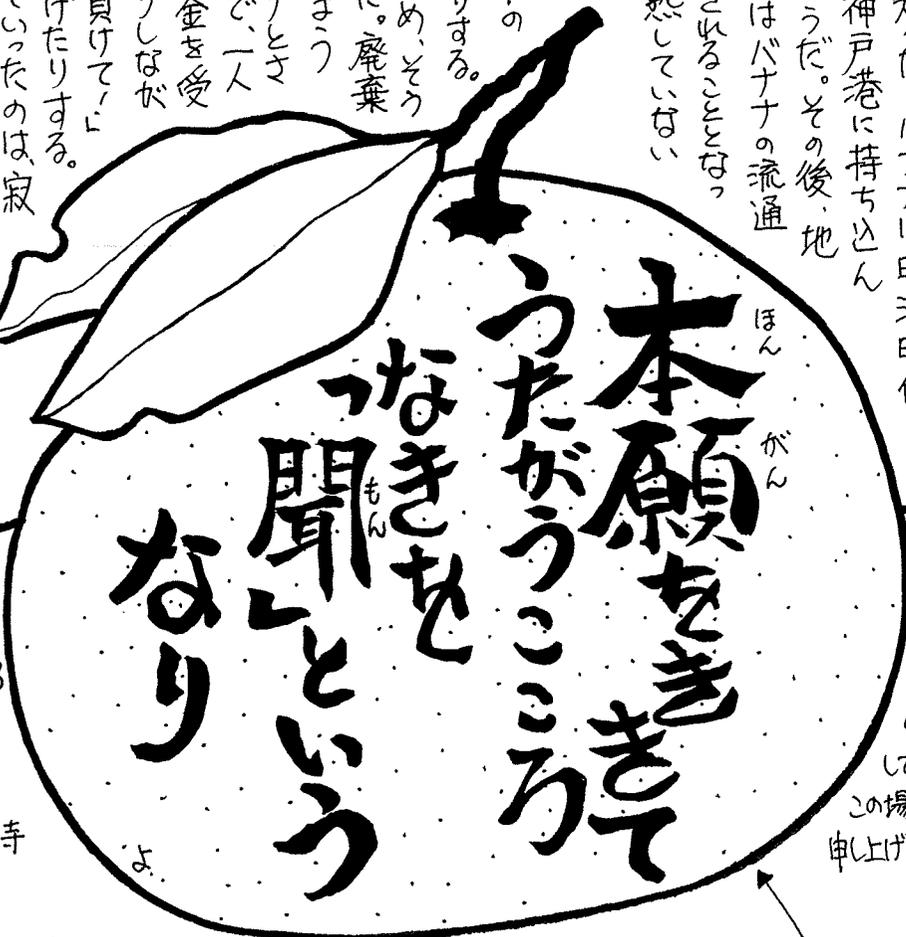
けとったり、バナナを渡したりしながら、

「まだ高い」とか「もっと負けてい

な」等のあいの手を入れて、盛り上げたりする。物流の発達とともに廃れていったのは寂しい気がするが、困難をチャンスに変えて乗り越えていく力って、どんな人にも同じだけ奥深くにあるのではと思ってお盆直前...

釋義祐

発行日 2019.7.13
発行 真宗大谷派 高德寺
編集
住職 新井義雄 (法名: 釋義祐)



今号も門徒総代の藤井清三さんのご厚意で印刷していただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。 合掌

《表紙の絵》 熊本城・戌亥櫓
《法語》 「一念の念文意」 親鸞聖人

〒164-0002 東京都中野区上高田 1-2-9

HP ホームページあります。 ☎ 03-9368-6947 FAX 03-3362-8019

「うとくじ」「高德寺」「新井自白記念ホール」などで検索してみてください。

「おかげさん」のバックナンバーも見れます!